

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 : 48%-水酸化カリウム水溶液

#### 会社情報

会社名 : 関東化学株式会社  
住所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1  
担当部門 : 電子材料事業本部 技術部  
電話番号 : (03)6214-1080  
FAX番号 : (03)3241-1043  
メールアドレス : el-info@kanto.co.jp  
整理番号 : GE00099 1.3  
推奨用途及び使用上の制限 : 電子工業用薬品

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

健康有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	皮膚腐食性/刺激性	区分 1B
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（呼吸器）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器）
	誤えん有害性	区分 1

#### 絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 飲み込むと有害  
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
臓器の障害（呼吸器）  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器）

#### 注意書き

安全対策 : ミスト/蒸気を吸入しないこと。  
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

#### 応急措置

: 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。  
皮膚を水で洗うこと。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

- 直ちに医師に連絡すること。  
気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。  
無理に吐かせないこと。
- 保管 : 施錠して保管すること。
- 廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 物質

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
水酸化カリウム	48	KOH	1-369	既存化学物質	1310-58-3

### 4. 応急措置

#### 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の水で洗い流し、速やかに医師の処置を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1-2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。無理にはかせてはならない。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷 : 吸入すると、のどの灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、肺水腫などを起こし、症状は遅れて現れることがある。皮膚に付着すると、発赤、痛み、重度の皮膚熱傷、水疱を起こす。眼に入ると、発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷を起こす。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし
- 消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

封じ込め方法 : 漏洩した液は、できるだけ空容器に回収する。漏洩した場所は希酸を散布して中和した後、水で十分に洗い流す。

**7. 取扱い及び保管上の注意**

**取扱い**

技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。  
 安全取扱注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。

**保管**

安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。  
 安全な容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ふっ素樹脂。

**8. ばく露防止及び保護措置**

水酸化カリウム	
産衛学会 上限	2 mg/m <sup>3</sup>
ACGIH 上限	2 mg/m <sup>3</sup>

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

**保護具**

呼吸用保護具 : 必要に応じて防じんマスクを着用する  
 手の保護具 : 不浸透性保護手袋  
 眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡  
 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

**9. 物理的及び化学的性質**

物理状態 : 液体  
 色 : 無色  
 臭い : 無臭  
 pH : 14 (1mol/L, 25°C)  
 融点 : データなし  
 凝固点 : データなし  
 沸点 : 140 °C  
 引火点 : 不燃性  
 自然発火点 : 不燃性  
 分解温度 : データなし  
 可燃性 : 不燃性  
 蒸気圧 : 0.41 kPa (20°C)  
 相対密度 : データなし  
 密度 : 1.49 g/cm<sup>3</sup> (20°C)  
 相対ガス密度 : データなし  
 溶解度 : 水: 自由に混合。  
 n-オクタノール/水分係数 (log Pow) : データなし  
 爆発限界 (vol %) : データなし

動粘性率: データなし  
 粒子特性: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性: 多くの金属塩の水溶液から水酸化物を沈殿させる。  
 脂肪をけん化して、脂肪酸ナトリウム及びグリセリンを生ずる。  
 化学的安定性: 通常条件で安定である。空気中の二酸化炭素を吸収し炭酸カリウムを生じる。  
 危険有害反応可能性: 酸と接触すると激しく反応する。  
 アルミニウム、すず、亜鉛、クロムなど、またそれらの合金を溶解し、その際に可燃性のある水素ガスを発生する。  
 避けるべき条件: 日光、熱。  
 混触危険物質: 酸、金属類。  
 危険有害な分解生成物: 酸化カリウム、水素。

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口): 飲み込むと有害  
 ATEmix=569mg/kg  
 急性毒性 (経皮): 分類できない  
 急性毒性 (吸入): 区分に該当しない (気体)  
 分類できない (蒸気)  
 分類できない (粉じん、ミスト)  
 皮膚腐食性/刺激性: 重篤な皮膚の薬傷  
 水酸化カリウム: 固体の本物質は腐食性を示すとの記載がある。ヒトの皮膚へのばく露で、Ⅲ度の薬傷を生じた事例や電池の電解液 (本物質 25%含有) により小穿孔を伴う組織の腐食がみられた事例がある。ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験で腐食性を示すとの記載があり、区分 1B とした。  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 重篤な眼の損傷  
 水酸化カリウム: ヒトに対して不可逆な障害があり、ウサギの試験で腐食性の記載に基づき、区分 1 とした。  
 呼吸器感受性: 分類できない  
 皮膚感受性: 分類できない  
 水酸化カリウム: モルモットを用いた皮膚感受性試験で陰性との記載や、カリウムイオン (K+) 及び水酸化物イオン (OH-) は生体内に元から存在するので皮膚感受性の原因とは考えにくいとの記載があるが、試験の詳細が不明でありヒトにおける報告もないため、分類できないとした。  
 生殖細胞変異原性: 区分に該当しない  
 水酸カリウム: 本物質に関する in vivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である。SIDS は、本物質、水酸化ナトリウム、塩化カリウム、炭酸カリウムの包括的な情報から変異原性について評価している。この評価に基づき、SIDS はこれらの物質には遺伝毒性がないと考えられるとの見解を示している。  
 発がん性: 分類できない  
 生殖毒性: 分類できない  
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露): 臓器の障害 (呼吸器)  
 水酸化カリウム: 本物質は皮膚、粘膜に対して強アルカリとして作用して、粉じん又はミストの吸入ばく露により上気道の刺激及び組織障害を起し、鼻中隔の傷害や肺水腫を生じる可能性もあると記載されていることから、区分 1 (呼吸器) とした。

- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器)  
 水酸化カリウム: ヒトについては、本物質の粉じん、ミストの吸入によって起こる障害は、主に上部気道の炎症であり、慢性的な作用によって鼻中隔に潰瘍を生じることが注意されている。ただし、気中濃度と障害発生に関する調査・研究の報告はない。粉じんあるいはミストのばく露によって、おそらく眼及び気道の刺激、鼻中隔の病変を生じる。以上のように十分な情報はないが、本物質はアルカリ性物質であり吸入により呼吸器に炎症性の影響を起こすことは明白であることから、区分1(呼吸器)とした。
- 誤えん有害性 : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
 水酸化カリウム: 本物質を非意図的で経口摂取した死亡例で、死因の一部に食道から気管への誤嚥、肺炎などがあるとの記述、及びアルカリの気道への誤嚥は喉頭、気管・気管支、肺に致命的な傷害を生じるとの記述から、区分1とした。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

- 水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない  
 水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない

### 残留性・分解性

追加情報なし

### 生体蓄積性

追加情報なし

### 土壤中の移動性

追加情報なし

### オゾン層への有害性

- オゾン層への有害性 : 分類できない

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 中和法 :  
 水に溶解して希薄な水溶液とし、酸(希塩酸、希硫酸など)で中和させた後、多量の水で希釈して処理する。  
 または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号(IMDG) : 1814  
 正式品名(IMDG) : POTASSIUM HYDROXIDE SOLUTION  
 容器等級(IMDG) : II  
 輸送危険物分類(IMDG) : 8

#### 航空輸送(IATA)

- 国連番号(IATA) : 1814  
 正式品名(IATA) : Potassium hydroxide solution

容器等級 (IATA)	: II
輸送危険物分類 (IATA)	: 8
海洋汚染物質	: 非該当
<b>MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質</b>	
汚染物質カテゴリー	: Y

**国内規制**

陸上規制	: 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
その他の情報	: 補足情報なし
緊急時応急措置指針番号	: 154

**15. 適用法令**

**国内法令**

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) 水酸化カリウム (政令番号: 316) 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質 (安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法	: 劇物 (指定令第2条) 水酸化カリウムを含有する製剤
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 (Y類物質) (施行令別表第1)
船舶安全法	: 腐食性物質 (危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	: その他の危険物・腐食性物質 (法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	: 車両の通行の制限 (施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 非該当

**16. その他の情報**

参考文献	: 化学物質の危険・有害物便覧、厚生労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会 (2000-2001)。 危険物ハンドブック、ギュンター・ホンメル編 シュプリンガー・フェアラーク東京 (1991)。 17322の化学商品、化学工業日報社 (2022)。 毒劇物基準関係通知集改訂増補版 毒物劇物関係法令研究会監修 葉務公報社 (2000)。 NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。
------	---

\*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート (SDS) は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。